

元芸人



つまんねえ。何もかも。高校生の寺中湧飛は退屈していた。

クラスメートはただ隠してばかりだし、授業なんて将来何の役に立つんだか、まるでサッパリ。

両親と、5人のきょうだいで住む実家の家計は、いつもギリギリ。遊びに行った記憶もあまりない。おまけに家族は創価学会員。両親は熱心で、仕事だって忙しいのに、毎日あちこち駆け回っている。

「なんか、おもしろいことねーかな……」

唯一の楽しみはテレビ。画面の中を動き回り、トークで爆笑をかっさうらお笑い芸人たちが、楽しそうに見えた。

高3の夏。「夏休みにシューノーケリングに行きます」。学校の選択授業の一環で、フィールドワークの知らせが。

めちゃくちゃ行きたくない。親しくもないヤツらと一緒に海で戯れるなんてごめんだ。

憂鬱な帰宅。食卓に、しつとパンフレットが一部置いてある。『創価大学』。オープンキャンパスの案内だった。

日程に息をのんだ。シューノーケリングの日だ。『これで休める!』。進路に関わることは高3にとって、究極の『武器』だった。

初めて創大のキャンバスへ。行くには行ったが、進学なんて毛頭考えちゃいない。適当に回ったら帰るつもりだった。

だが湧飛の目は、スタッフの学生に引きつけられた。『楽しそう』。単なる楽しそうではなくて、『充実』って感じの笑顔。いつのまにか、そこにいる自分を想像していた。

『創大に行きたない』

湧飛の相談に両親は驚いた。成績は悲惨だ……。『応援する』。母が真っすぐ胸締め返してくれた。人生で一番勉強した。2011年(平成23年)、合格通知を受け取った。

『落研入らへん?』。入学後、ある同級生が話しかけてきた。すでに落語研究会に入り、周りを誇っているらしい。こいつは意識高い系。気にくわない。

けれど、お笑いには興味があった。せっかく大学に来て、何もしないのはもったいない。『やるわ』

四六時中、『おもしろい』を追求する日々。夜中でもめし巡りや銭湯に入って、仲間とネタをひねりまくった。

だが2年が過ぎる頃、湧飛はヘタれていた。全然ウケない。テレビで少しは培ったと思っていたスキ

笑いへの新たな挑戦

本人以上に若者を信じられる大人に

もそれだった。このままでは、自分が壊れてしまう気がした。創立者の指針と、何度も向き合った。皆が喜ぶ——そこには、もれなく自分も含まれているはず。2022年(令和4年)、キャリアに区切りを付けた。

から職探し。ネットで、ソーシャルワーカーの存在を知る。家族が頭に浮かんだ。きょうだいの一人に、障がいがあった。大学に通うまで、ずっと避けていた。だから特別な響きがあった。

ある日。都内で、大人を頼れない若者の支援を行うNPO法人の代表が、テレビのインタビューに答えていた。

「悩みごとを楽しく解決したい」

居ても立ってもいられず、そこへ赴いた。

「絶対に向いてる!」。代表は湧飛の経験に興味を持ち、快く受け入れてくれた。

家庭不和や虐待などを理由に、孤立してしまった15~25歳ほどの若者たち。一時の居場所やシェアハウスを提供し、社会復帰の糸口を探していく。

利用者が抱える心の傷と向き合うのは、想像以上に難しかった。

仕事に就いても上司とうまくいかず、すぐ辞めてしまうことがほとんど。『甘えだ!』といった大人の目にさらされることを恐れ、余計に心を閉ざしてしまうこともある。

マニュアルはない。だから湧飛は、自分の「おもしろい」を手がかりにして、利用者へアクションを起こす。

といつても、ひたすら一緒に食事を囲んだり、銭湯で裸の付き合いをしたり。つまりは、落研や学会活動で楽しかった空間を再現しているだけ。でも利用者には、そんな『何でもない経験』、ええ、ほとんどなかった。

「人生つまんない」

時間と共にしながら、ぽつりと利用者から漏れたホンネ。ふと高校生の自分が重なる。

どんな言葉をかけられたら、うれしかったのだろう——『つまんねえよな』(笑)。

きれいな事じや済まないくらい、日常は面倒で、うまくいかないことだらけ。だからお笑いを始め、笑いを生む喜びを知った。

家族や落研との出合いが、自分に思いもよらない可能性があることを教えてくれた。若者一人一人にだって絶対にある。本人以上に、それを信じられる大人でありたい。

利用者の悩みを代わってあげることはできなくても、『こんなヤツいたな』くらいになら、なれるかもしれない。だからもっともっと、おもしろくなつてやる。

(5月15日付)

ソーシャルワーカーとして生きる

客席の笑い声が、少しずつ大きくなっていった。

大学3年の3月。湧飛は大学生お笑いのコンテストで、団体戦チームの一人に選抜された。全国の大舞台。練りに練ったネタで沸れ散らす。この年、創大落研は日本一に輝いた。



法大スタッフと情報交換をする寺中さん

てらなか・ゆうひ 1992年(平成4年)生まれ。04年入会。創価大学落語研究会に所属し、卒業後はお笑い芸人に。現在は『若者ソーシャルワーカー』として、都内のNPO法人のスタッフを務める。東京都府江市在住。男子地区リーダー。



地図に残る仕事。

大成建設グループ
TAISEI

大成建設 大成ロティック 大成有楽不動産 大成ユーレック 大成設機
成和リニューアルワークス 大成有楽不動産㈱ 大成建設ハウジング 佐藤秀悟

